

5月30日
あなたの名は祝福
創世記12章1～9節

12:1 【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。

12:2 そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとしよう。あなたの名は祝福となる。 12:3 あなたを祝福する者をわたしは祝福し、あなたをのろう者をわたしはのろう。地上のすべての民族は、あなたによって祝福される。」

12:4 アブラムは【主】がお告げになったとおりに出かけた。ロトも彼といっしょに出かけた。アブラムがハランを出たときは、七十五歳であった。 12:5 アブラムは妻のサライと、おいのロトと、彼らが得たすべての財産と、ハランで加えられた人々を伴い、カナンの地に行こうとして出発した。こうして彼らはカナンの地に入った。 12:6 アブラムはその地を通って行き、シェケムの場、モレの櫛の木のところまで来た。当時、その地にはカナン人がいた。

12:7 そのころ、【主】がアブラムに現れ、そして「あなたの子孫に、わたしはこの地を与える」と仰せられた。アブラムは自分に現れてくださった【主】のために、そこに祭壇を築いた。12:8 彼はそこからベテルの東にある山のほうに移動して天幕を張った。西にはベテル、東にはアイがあった。彼は【主】のため、そこに祭壇を築き、【主】の御名によって祈った。12:9 それから、アブラムはなおも進んで、ネゲブのほうへと旅を続けた。

イースター、ペンテコステの礼拝が
終わりました。

礼拝説教はローマ書4章に戻るところです。

ローマ書4章は

4:1 それでは、肉による私たちの先祖アブラハムのばあいは、どうでしょうか。4:2 もしアブラハムが行ないによって義と認められたのなら、彼は誇ることができます。しかし、神の御前では、そうではありません。4:3 聖書は何と言っていますか。「それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義と見なされた。」とあります。

アブラハムが登場します。

信仰によって義とされることをローマ3章で解説して信仰によって義とされた実例としてローマ書4章でアブラハムが登場します。

パウロの時代のユダヤの人々であればこの例話は説得力がありました。今日の日本人には少しむづかしい。

それでまた横道にそれますが
しばらく創世記から
アブラハムの生涯と信仰を学んで
行くことにしましょう。

アブラハムは新約聖書で
何度も引用されます

ステパノの説教

使徒の働き7:2

そこでステパノは言った。「兄弟たち、父たちよ。聞いてください。私たちの父祖アブラハムが、カランに住む以前まだメソポタミヤにいたとき、栄光の神が彼に現われて、

7:3 『あなたの土地とあなたの親族を離れ、わたしがあなたに示す地に行け。』と言われました。

7:4 そこで、アブラハムはカルデヤ人の地を出て、カランに住みました。そして、父の死後、神は彼をそこから今あなたがたの住んでいるこの地にお移しになりましたが、

7:5 ここでは、足の踏み場となるだけのものさえも、相続財産として彼にお与えになりませんでした。それでも、子どももなかった彼に対して、この地を彼とその子孫に財産として与えることを約束されたのです。

ヘブル書11章8～9節

11:8 信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかわからないで、出て行きました。

11:9 信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束をともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。

ヨハネ8:32

そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」

8:33 彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、決してだれの奴隷になったこともありません。あなたはどうして、『あなたがたは自由になる。』と言われるのですか。」

ユダヤ人、イスラエル人とはだれか。

血族的、民族的には

アブラハムの子孫。

または割礼を受けて

ユダヤ教に改宗した人々。

では私たちとアブラハムとは
どんな関係があるのでしょうか。

ガラテヤ3:6

アブラハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです。

3:7 ですから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。

3:8 聖書は、神が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていたので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される」と前もって福音を告げたのです。

3:9 そういうわけで、信仰による人々が、信仰の人アブラハムとともに、祝福を受けるのです。

3:28 ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからです。

3:29 もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。

新約聖書の時代の今

民族的ユダヤ人、血族的イスラエル人が
ユダヤ人、イスラエル人ではなく
イエスキリストを信じているすべての
クリスチャンが神に認められる
霊的な本当のユダヤ人、イスラエル人、
アブラハムの子孫です。

アブラハムの歩みを学んで
本当のアブラハムの
子孫とならせていただきます。

使徒7:2

私たちの父祖アブラハムが、カランに住む以前まだメソポタミヤにいたとき、栄光の神が彼に現われて、

7:3 『あなたの土地とあなたの親族を離れ、わたしがあなたに示す地に行け。』と言われました。

土地と
親族とを離れて
わたしが示す地へ行きなさい。

アブラハムの先祖、
アダム、エバ。 エデンの園に住んでいた。

セツ 主の名によって祈る家系

エノク 神と共に歩んだ

ノア 家族の救いのため箱舟を造った

ノアから10代目テラが生まれました。

ヨシュア記24:2

ヨシュアはすべての民に言った。「イスラエルの神、【主】はこう仰せられる。『あなたがたの先祖たち、アブラハムの父で、ナホルの父でもあるテラは、昔、ユーフラテス川の向こうに住んでおり、ほかの神々に仕えていた。

ノアから10代目のテラは
ほかの神々(偶像)に仕えていた。

古いユダヤ教のミドラシュ文書

「テラは実はウルの偶像づくりであった。土をこね、窯にいれ、焼き上げた偶像で飯を喰っていた。アブラムは、ある日父テラが造った大小様々の偶像のうちどれが一番強い偶像かと聞いた。テラは一番大きい偶像だと答えた。アブラムは父が外出したときに、その一番大きな偶像を残して、他の偶像をことごとくたたき壊しました。帰って来た父テラは誰がこれらの偶像を壊したのかと問うた。アブラムが「それは一番大きなその偶像ですよ」と応えるとテラは怒って言った。そんなことがあるものか。単なる土偶人形にどうしてそんなことができよう。

息子アブラムは「その通りですよ。お父さん。それは単なる土偶人形です。そんな何もできないものを神とするとは何たることですか」テラは偶像の愚を思い知って、偶像商売から足を洗って、ウルの地を離れて、息子アブラムに連れられてカランの地まで行きました。約束の地、目的の地のカナンまで行かずカランでとどまってそこで205年の人生を終えています。道半ばの挫折。

アブラハムは父テラがなくなり、
75歳の時
親族を離れ、
父の家を離れて
わたしの示す地に生きなさい、
との神様からの召しにしたがって
行き先の知らされないまま
旅に出かけました。

祝福される人生のため

- ①生まれ故郷を離れること
偶像から離れること

偶像崇拝の本質

本当に神様にだけ信頼していない。

他宗教の神々を崇拝すること。

神でないものに頼っている

お金、お金を得る手段の

会社、資格、立場、学歴

を神様以上に頼る、

人の評判、人の評価、社会の評価を第一
にすること。

美しさ、力強さ、カッコよさという
偶像に縛られていませんか。

それらがなくなっても
自然に平常に過ごせるか
ひがんだり妬んだりしないか。

神様を心から信じる時、
世の価値観から解放されて行きます。
あなたの土地にしみついている価値観、
考え方から解放されて、
心から神様を信じて行くために
育った土地、風土から
離れることが求められています。

②父の家を離れる

親から受けた価値観から離れる。

離れなければ真の合体は出来ない。

会社を変わる時、

転職する時、

以前の会社に未練があれば

あたらしいところになじめない、溶け込めない、

過去を断ち切らなければ

あたらしい世界に入れない。

人の評価

学校の成績、

会社での評価、人の人気

これらに幼いころおから縛られていた。

神様を信じることは天のお父様を本当のお父様と信じ、地上の父、親、先生、などから受けた人間的な縛りから解放されること。

③旅を歩み始める

このためには新しい人生の旅を

始めて行かなければ、

解放の実態は起こらない。

知らない世界に神様を信じて

歩み出していくこと。

歩み出すことは

信じていることの証し。

だれでもキリストのうちにあるなら、
その人は新しく造られた者です。

古いものは過ぎ去って、
見よ、すべてが新しくなりました。

コリント第二5章17節

まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」

ヨハネ3章3節